

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く・読む」…文章で表現する時の語彙は乏しい。また、学習した漢字を正しく書く力が乏しい。初めて読む文章についての読解力は低めである。読んだことや調べたことをもとに自分の考えをもち、文章に表すことに苦手意識をもつ児童が多い。 ・「話す・聞く」…自分の意見や考えを進んで話したり、進んで話し合いに参加したりする児童が限られている。 ・「漢字・言語」…漢字の学習では、定着の個人差が大きく、できる・できないの二極化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く・読む」…視写・聴写などの書く活動を多く取り入れ、限られた時間内にきれいに正しく書けるようにしていく。音読をする時に、自分の声を自分で聞いたり、誰かに聞いてもらったりと、聞くことを意識できるような工夫をしていく。字形・送り仮名は、正しく丁寧に書くことを繰り返し指導していく。 ・「話す・聞く」…興味や関心のある話題による対話や、話し合い・発表を授業の中に取り入れていく。基本の話型を提示することで発表の仕方を覚えさせる。 ・「漢字・言語」…朝学習などを活用して更なる反復練習をしていく。国語辞典を日常的に活用していく。習った漢字や語句は作文等で使えるようにノート指導をしていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な資料を通して、情報を適切に調べたり、主体的に学習問題に取り組んだりすることに苦手意識をもつ児童が多い。 ・区や都などの地域における社会的事象を観察や見学、聞き取りなどの調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、集め、読み取り、まとめることに苦手意識のある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に必要な情報をスモールステップで児童に示す。 ・児童が主体的に活動できるような課題設定をする。 ・まとめたい内容に合わせて、資料を活用できるように単元の終末にまとめや発表の時間を作る。 ・視覚資料や学区内の地図など児童の発達段階に合った資料を提示する。 ・方位や都道府県などの基礎的な知識を身に付けさせる時間を意図的に繰り返し設定する。 ・新聞・白地図・リーフレット・ポスターなど、様々な種類の形態のまとめ方を経験させる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し上りのたし算、繰り返し下りのひき算、かけ算、わり算などの基礎的な計算力が不足している児童がいる。 ・考えたことを絵や図、数直線、表、グラフ、言葉などに表現する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に学習する学年だけでなく、その後の上の学年でも、かけ算の筆算、わり算の筆算、小数の計算、分数の計算などについて、使うことを通して学び直しができるように配慮しながら指導していく。 ・自分の考えを表現する活動を設けるとともに、人が表現したものを読み取る活動も取り入れていき、表現そのものに慣れていけるように指導していく。 	

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察では、足の本数・ついている部分・葉の枚数などが実際の観察対象と異なり、正確に観察できていない児童がいる。 ・予想や考察で自分の考えを文章で書くのが苦手な児童がいる。また、不正解を恐れて表現する（書く・話す）ことを避ける児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識やイメージではなく、見えたものをそのまま絵に表現することを繰り返し指導し、観察中にも個別に声掛けする。 ・予想や考察を書く際に児童が参考にできるガイドラインを活用する。また、正否に関わらず、根拠のある予想や考察を授業の中で価値付けしていくようにする。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・観察では、葉や花の数などが実際の観察対象と異なったり、太陽などの風景まで絵に表したりするなど、正確に観察できていない児童がいる。 ・授業で学んだことが、授業の中でしか生かされておらず、自分の生活との繋がりを考えられていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識やイメージではなく、見えたものをそのまま絵に表現することを繰り返し指導し、観察中にも個別に声掛けする。 ・授業の中で、生活経験を根拠にして話し合う活動や、生活にどう生かすことができるか考える時間を取り、学びに向かう力を育むようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜力が弱く、特にリズム譜がよく読めない。 ・音楽の要素や既習事項を関連付けて思いや意図をもって表現する力が低い。 ・リズム譜に慣れ、思考して表現する手立てが必要とされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を使ったリズム活動を多く取り入れ、耳で聴くから目で見える活動に移行し、リズム譜に触れる場面を多くする。 ・教師が先に説明せずに、既習事項を振り返ったり、思考したりする場面を多くし、表現活動に結び付けるようにする。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に対する理解や用具の扱い方など、これまでの基礎基本の習得にばらつきがある。 ・楽しんで活動しているが、どんな作品をつくるかなかなか決められなかったり、表現を深めていけなかったりする児童がいるので、題材の内容を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて扱う道具の使い方の指導には、十分時間を取り、繰り返し指導する。また、既習経験のある道具・用具を複数の題材で繰り返し経験できるようにしたり、個別に支援したりする。 ・電子黒板等を活用し、作品の提示の仕方や手順の説明を分かりやすく行うことで、関心や意欲を高め、活動の見通しをもてるように指導を工夫する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫実習では、裁縫前と片付け時の針の本数を数え忘れていたり、裁ちばさみを使い終わっても机の上に置いたままにしたりしている児童がいるので、用具の安全な取り扱いについて理解させ、適切にできるよう指導する必要がある。 ・学校で学習したことを、家庭生活で実践している児童が少ないようなので、よりよい家庭生活を考え、計画を立てて実践できるよう指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を使う手順を明確にし、繰り返し安全に取り組むための注意事項を確認するようにする。また、ICTを活用して視覚化することで、児童の理解をしやすくする。片付け時間が少なくならないように、製作時間を計画的に取るができるよう、考えさせる。 ・学習カードを活用して、家庭生活でも実践できるようにする。また、計画を立てる時間を有効活用する。実践させるためには、基礎的な知識、技能を授業の中で定着させる。 	

<p>体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行い方のきまり、用具の使い方、場の安全確保など運動遊びの行い方をしっかりと身に付けさせる必要がある。 ・各種の運動を通して、基本的な動きを身に付け体力を養うとともに、いろいろな運動や技能を経験させる必要がある。 ・意欲的に取り組む児童が多いが、走る運動、ボール運動などのゲーム的な運動に偏りやすい傾向があり、鉄棒やマット運動などの器械運動、では意欲面・技能面ともに個人差が大きい。どの領域においても、楽しさを味わわせられるよう、実態に応じた指導計画を立てる必要がある。 ・個に応じた指導やスモールステップでの授業を継続的に行い、自己のめあてや課題を明確にもたせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の関連に気付けるように声かけをしたり、器械・器具、場の設定や活動を工夫したりする。 ・密接・密集を避け、実態に合わせた運動を取り入れる中で、楽しみながら多様な動き方を体験できるように指導をしていく。 ・音楽に合わせて体を動かすことで補助運動につなげたり、カードを活用して視覚的に分かるようにしたりする。 ・状況を見ながらグループ学習を取り入れ、運動のポイントやコツをおさえる際には、手本となる動きを児童の中から示したり、児童同士が教え合いの中で見付けたりして全体共有を図り、高め合えるよう学習環境を整える。 ・学習の見通しをもたせ、自己の課題が明確になるような学習資料やカードを取り入れる。また、器械運動や陸上運動では、スモールステップで技能を提示し、個人差に応じる工夫をする。 	
<p>外 国 語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に外国語を使って交流しようとする児童とそうでない児童に差が見られるため、外国語を身近に捉えられるように、「話す・聞く」の音声中心の指導をしていく必要がある。 ・ALTの言った単語を繰り返して練習しているときは、自信をもって言えているが、自分たちだけの練習になったときに身に付いておらず困惑する児童が多い。 ・単語や文章を書き写す際に、英語で書くことに慣れておらず、進まない児童が多い。読み書きの活動が不足していると考ええる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に使われている外国語を取り上げたり、普段使う言葉を外国語で発音してみたりすることにより、意欲を高める。また、映像を見たり、ゲームをしたり、ジェスチャーをしたりしながら、発話することで、外国語にふれることの楽しさを味わうように指導する。 ・チャンツやゲームの中だけでなく、歌やリズムに合わせて発音することで、語彙力を増やすとともにリスニングの力も高める。 ・教科書を使用しての読み書きの活動時間を一単位時間に必ず取り扱う。また、ローマ字表を準備しておき活用するなど、自信をもって取り組めるようにする。 	